

平成15年2月5日
気象庁 気候・海洋気象部

配信資料に関する技術情報（気象編）第122号

－平成15年3月からの3か月予報資料等の変更について－

3か月予報は、平成15年3月より力学的予測手法を導入し、統計的予測手法と併用して行うこととしています。これに伴い、平成15年3月からは新しい3か月予報資料（FAX資料）の配信を開始し、現在配信している3か月予報資料は2月をもって配信を終了します。また、季節予報発表日に配信している全般季節予報（3か月予報）は、平成15年3月から内容の一部を変更します。

なお、新しい3か月予報資料に掲載する予想図表類の作成方法や資料の見方等を解説したものを別途、技術情報として2月下旬を目途に配布する予定です。

1. 新しく配信を開始する資料

資料名：季節予報資料（3か月予報）

ヘッダー：3か月予報資料（1）～（10）

データ形式：FAX

画種情報：QXVX41～50

冒頭符号：FCVX41～50

画種番号：86～95

配信日：毎月10日頃にQXVX41～42を配信し、20日頃にQXVX43～50を配信する。2003年の配信予定日は、別紙1のとおり。

配信開始日：平成15年3月10日

資料の概要：別紙2のとおり。

2. 配信を終了する資料

資料名：季節予報資料（3か月予報）

ヘッダー：3か月予報資料（1）～（3）

データ形式：FAX

画種情報：QXVX31～33

冒頭符号：FCVX31～33

最終配信日：平成15年2月13日

3. 内容を一部変更する資料

資料名：全般季節予報（3か月予報）

ヘッダー：全般季節予報（3か月予報）

データ形式：FAX

画種情報：QLVX90

冒頭符号：FCXX90

画種番号：249

配信日：3か月予報発表日。2003年の配信予定日は、別紙1のとおり。

変更後の資料の例：別紙3のとおり。

資料の変更内容：力学的予測手法と統計的予測手法を併用した予報作成の考え方を記述します。これに伴い、参考図・要素別予報図・およその天候経過図の掲載を終了します。

平成 15 年の 3 か月予報資料配信予定表

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
1	土		火		木		日		火		金	1
2	日		水		金		月		水		土	2
3	月		木		土		火		木		日	3
4	火		金		日		水		金		月	4
5	水		土		月		木		土		火	5
6	木		日		火		金		日		水	6
7	金		月	3資1	水	3資1	土		月	3資1	木	7
8	土		火		木		日		火		金	8
9	日		水		金		月	3資1	水		土	9
10	月	3資1	木		土		火		木		日	10
11	火		金		日		水		金		月	11
12	水		土		月		木		土		火	12
13	木		日		火		金		日		水	13
14	金		月		水		土		月		木	14
15	土		火		木		日		火		金	15
16	日		水		金		月		土		日	16
17	月		木		土		火		水		木	17
18	火		金		日		水	3資2	土	3資2	火	18
19	水	3資2	土		月	3資2	木		日		水	19
20	木		日		火		金		月		土	20
21	金		月	3資2	水		土		火		日	21
22	土		火		木	○	日		水		土	22
23	日		水		金		月		木	○	日	23
24	月		木	○	土		火		水		月	24
25	火	○	金		日		水	○	土		火	25
26	水		土		月		木		日		水	26
27	木		日		火		金		月		土	27
28	金		月		水		土		火		日	28
29	土		火		木		日		水		土	29
30	日		水		金		月		木		日	30
31	月		木		土		火		金		月	31

○ : 3か月予報発表日

3資1 : 3か月予報資料 (1) ~ (2)

3資2 : 3か月予報資料 (3) ~ (10)

新しく配信を開始する 3 か月予報資料の概要

資料名	要素	概要	参照図
3 か月予報資料 (1)	最適気候値 (OCN) 予測資料	最適気候値法 (OCN) に基づく、気温・降水量予測値。	別紙 2-1
3 か月予報資料 (2)	正準相関分析 (CCA) 予測資料	正準相関分析法 (CCA) に基づく、気温・降水量予測値。	別紙 2-2
3 か月予報資料 (3)	実況解析図	北半球 500hPa 高度、日本付近の 850hPa 気温・海面更正気圧の実況図。	別紙 2-3
3 か月予報資料 (4)	熱帯・中緯度予想図	数値予報モデルの下部境界条件として与える海面水温平年偏差図、降水量予想の平年偏差図、アンサンブル数値予報による熱帯・中緯度循環場 (200hPa・850hPa 流線関数等)。	別紙 2-4
3 か月予報資料 (5)	北半球予想図	アンサンブル数値予報による北半球 500hPa 高度、日本付近 850hPa 気温・海面更正気圧のアンサンブル平均図と平年偏差図。	別紙 2-5
3 か月予報資料 (6)	高偏差確率・ヒストグラム	アンサンブル数値予報による高偏差確率の北半球分布図、各種循環指数の全アンサンブルメンバーによるヒストグラム。	別紙 2-6
3 か月予報資料 (7)	各種指数類時系列図	アンサンブル数値予報による各種循環指数の全アンサンブルメンバーの時系列図。	別紙 2-7
3 か月予報資料 (8)	数値予報ガイダンス (気温・降水量・降雪量)	アンサンブル数値予報に基づく、気温・降水量・降雪量ガイダンス。ただし、降雪量は 10 月から 1 月までに配信する資料にのみ掲載。	別紙 2-8
3 か月予報資料 (9)	数値予報ガイダンス (日照時間・天気日数)	アンサンブル数値予報に基づく、日照時間・天気日数ガイダンス。	別紙 2-9
3 か月予報資料 (10)	数値予報ガイダンス (ヒストグラム)	アンサンブル数値予報に基づく、3 か月平均気温平年偏差・3 か月降水量平年比の全アンサンブルメンバーによるヒストグラム。	別紙 2-10

**全般季節予報
3か月予報**

**200×年1月×日
予報期間：2月～4月**

1. 可能性の大きな天候

向こう3か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、全国で高いでしょう。降水量は全国で平年並でしょう。北日本日本海側の降雪量は平年並か少ないでしょう。

2月 西日本日本海側では平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。東日本太平洋側、西日本太平洋側では平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。その他の日本海側および南西諸島では平年と同様曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では平年同様晴れの日が多いでしょう。

気温は、北日本、東日本では平年並か高く、西日本、南西諸島では高いでしょう。降水量は、東日本太平洋側、西日本で平年並か多く、その他は平年並でしょう。

3月 天気は周期的に変わるでしょう。

気温は全国で高いでしょう。降水量は全国で平年並でしょう。

4月 天気は周期的に変わるでしょう。東日本日本海側、西日本日本海側では平年に比べ晴れる日が多いでしょう。南西諸島では平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は全国で高いでしょう。降水量は東日本日本海側、西日本日本海側で平年並か少なく、南西諸島で平年並か多く、その他は平年並でしょう。

2. 確率予報

気温	3か月	2月	3月	4月
北日本	20:30:50	20:40:40	20:30:50	20:30:50
東日本	10:40:50	20:40:40	10:40:50	10:40:50
西日本	10:40:50	20:30:50	10:40:50	10:40:50
南西諸島	10:40:50	20:30:50	10:30:60	20:40:40

降水量	3か月	2月	3月	4月
北日本日本海側	20:50:30	20:50:30	20:50:30	20:50:30
北日本太平洋側	30:50:20	20:50:30	30:40:30	30:50:20
東日本日本海側	30:50:20	30:50:20	30:40:30	40:40:20
東日本太平洋側	30:50:20	20:40:40	30:40:30	30:50:20
西日本日本海側	20:50:30	20:40:40	30:40:30	40:40:20
西日本太平洋側	20:50:30	20:40:40	30:40:30	30:50:20
南西諸島	20:50:30	20:50:30	30:40:30	20:40:40

降雪量	3か月
北日本日本海側	40:40:20
東日本日本海側	—
西日本日本海側	—

3. 考え方とまとめ

エルニーニョ現象は成熟期と見られ、Z500等のパターンはエルニーニョ時の特徴が現れている。少なくとも春期間はエルニーニョが持続する想定から、数値予報の循環場予報を採用する。今冬12月、1月はエルニーニョのパターンであったが、北日本を中心に寒気の影響を受けやすかった。数値モデルでは、期間平均で極寒気がやや活発と予測しているが、この予測に関し数値モデルは不得手であり、AO（いわゆる北極振動）インデックスも最近、正へ回帰の傾向が見られる。

ガイダンス、統計予報の春期間の成績は一般に良くはないが、気温についてはガイダンス、統計モデルとも同じ傾向を示しており、ガイダンスを丸めて確率をつける。降水量についてはガイダンスの傾向で循環場より説明のつくものについては「平年並～多い（少ない）」で評価する。

予報のイメージとしては、2月は、北日本中心の冬型で長続きはしない、3月は周期変化、4月は周期変化基調だが、東谷で移動高。

3か月平均

気温：数値予報ガイダンスは「高い」70％程度、OCN、CCAも高温傾向を支持する。高温確率は50％とし、AO影響の可能性の大きい北日本の低温確率を20％とする。

降水量：ガイダンスは、北日本日本海側「多雨」、東日本日本海側「少雨」。東日本日本海側はCCA、OCNの支持もあるが月別では特徴はなく、3か月降水量としては全国「平年並」を基調として、ガイダンスの傾向で傾向を付ける。

日本海側の降雪量：ガイダンスは北日本「少雪」傾向。ガイダンスを丸める。

2月：【気温】ガイダンスの傾向は採用するが、1/24の1か月予報資料でも見えている前半の並～低温傾向を考慮し、高温確率を低めに修正。**【降水量】**冬型弱い予想からは南岸ロウの影響が考えられ、ガイダンスにある東日本太平洋側、西日本の多雨傾向は「並～多い」で採用する。

3月：【気温】ガイダンスの高温傾向はOCN、CCAで支持される。高温確率は50％とする。**【降水量】**ガイダンスは特徴なく、全国「平年並」基調。

4月：【気温】各資料とも高温傾向。予報はガイダンスをやや弱めて採用。**【降水量】**ガイダンスは東日本日本海側「少雨」、南西諸島で「多雨」。東・西日本の統計資料で「少ない」傾向は有意。東日本日本海側、西日本日本海側「並～少ない」、南西諸島「並～多い」とする。

4. 前回3か月予報とのカテゴリの違い

2月気温 東日本： 高い → 平年並か高い
 2月降水量 北日本日本海側、東日本日本海側： 平年並か少ない → 平年並
 2月降水量 西日本日本海側： 平年並か少ない → 平年並か多い
 2月降水量 東日本太平洋側、西日本太平洋側： 平年並 → 平年並か多い
 3月降水量 西日本： 年並か少ない → 平年並

5. 次回の放送予定

1か月予報：毎週金曜日 次回は 1月××日
 3か月予報：2月××日（木）